

緑友会コミュニケーション誌

FRIENDS OF GREEN

フレンズ オブ グリーン

1996年 月発行

No. 90

青森県青森市平新田森越17-1
発行人 長尾 良宣 青森県印刷青年経営者会議
編集人 茨城印刷緑友会



 全国印刷緑友会

第29回 全国印刷緑友会 金沢セミナー

と き 2月17日(土)
と ころ 金沢市民芸術ホール

「一週間前だったら、雪の中でしたよ。」
と言う金沢の人達の言葉がうその様に、黒い土がまわりに見え太陽がまぶしい小松空港におり立ち金沢青年印刷人クラブのメンバーの熱意が雪まで溶かしたかという感を強くした。今回のセミナーは緑友のセミナー史上初めて東海道ベルトラインをはずれ（一度、福岡で開かれたが、東海道新幹線の延長線上ということ）開催された。

この時期の天候の問題が大きく立ちほだかって、ここ何年間かの常任幹事会で揉みに揉まれた今回のセミナーは地元金沢青年印刷人クラブの熱意が生んだ産物だった。それだけに、この晴天の下で無事開催される事が金沢のメンバーにとってどれほどうれしか計り知れない。

式典は、地元の西川寛君の開会宣言で始まり広島青年印刷人クラブの福田信彦君の綱領唱和、各グループ紹介、そして永野実行委員長、長尾全国会長と挨拶が続き、来賓よりの祝辞を頂き無事終了。

その後のセミナーについては後ページで紹介していますので見て下さい。

そのほとんどが手作りというセミナーは好感が持て、金沢青年印刷人クラブの一致団結した熱意を肌で感じる事ができた。



お礼の言葉

全国印刷緑友会
第29回金沢セミナー実行委員会委員長

永野博信



平成8年2月17日(土)、金沢市民芸術ホールに於いて、午後1時15分より、全国印刷緑友会、第29回金沢セミナーが開催された。参加グループ36、参加人数247名でした。

今月初めの大雪で、航空機や鉄道は運休や時間遅れが続出し、北陸自動車道や国道8号線はマヒ状態でした。一時はどうなるのかたいへん心配しましたが、14日と15日が気温18℃の春陽気になり、あんなにあった雪がアツという間に解け、当日は寒いながらも雲ひ

とつなく、無事金沢セミナーを開催することが出来ました。これも皆様方の熱意が伝わったものと、深く感謝申し上げる次第です。又金沢セミナー開催については、一昨年の10月にエントリーして以来、太平洋側の大都市でしか開催されていなかったセミナーを地方都市の金沢で開催する事に承認していただき、これを機会に他の地方都市でもセミナーを開催する事が出来る足がかりになったのではないかと思います。

さて私が金沢セミナー実行委員長を受けたのは、昨年の1月金沢青年印刷人クラブの新年会の時でした。その時は“まあなんとかなるさ”という軽い気持でしたが、名古屋セミナーに出席してたいへんショックを受けました。“これはたいへんな事になったぞ”ということで、金沢に帰って早速実行委員会を開き協議に入りました。

まず会場ですが、雪の季節ですので駅前が良からうということ、又一番新しいホテルということで、ホテル日航金沢との交渉から始めました。次はセミナーです。何をしようかということで、とりあえずセミナー委員会で案をいくつか——上げて来いということになりました。いくつか案は出て来るのですが、なかなか決手がなく5月になってしまいました。あるメンバーから、青年会議所時代に金沢市とアメリカのボストンにあるタフツ大学との間で交流を深めようということになり、その時助教授であったチャールズ・シロー・イノウエ氏とお会いし、氏は何度も金沢に来られ、金沢の文化、特に泉鏡花の研究をされ、二俣の和紙に興味を持っておられ、自らも執筆し出版もされていると知らされ、それは良いと、第一部の講演会はその方にしようと思いました。

第二部の方は私達メンバーでの手づくりをしたいという気持ちが強く、話は決まらず、むなし日々を過ごしてしまいました。8月の熊本大会までにはある程度の案を出したいと思い、自分の思いの中にあつた“私達を取りまく環境の中で身近な課題、問題を取り上げクイズ方式で発表

したらどうだろう”と実行委員会に計った所
“その案でいきましょう”ということになり
ました。これからが大変で、ではどういう問
題を出すのかということで、実行委員会で案
を出し、セミナー委員会でもんでもらいま
した。労務士や弁護士の方々と相談し、少し形
が見えてくるようになりました。私達の手づ
くりを強調しようということで、台本をつ
くり、10月の例会で二問題リハーサルを行ない



ました。素人というのはダメなもので、一問5分程度で終り、間のぬけたようなものでした。これではダメだということで、問題の出し方を俳優にしてもらってはどうかということになり再度練り直し、1月の新年会リハーサルに向け検討を進めてまいりました。金沢にもいくつかの劇団が有り、その中の“劇団百十 show”に話をした所、心良く引き受けていただき、調子よくトントンと話が進んでいきました。さすがにプロが入ると違うもので、全体が引き締り、参加者を引き付ける迫力が出て来ました。いくつかの改良点があるものの前回とはうんでいの差でメンバーから喝采を浴び、私は気持ちが落ちつき大変安心した次第です。

残す所、後1ヶ月、登録、式典、懇親会の各委員会も最後の詰めに入りました。登録人数もなんとか予定人数に達し、後は皆様方をお迎えするばかりとなって来ました。

2月10日には会場である金沢市民芸術ホールで入念なりハーサルを行い、当日の細かいチェックを行ないました。後は天候次第！おかげさまをもちまして当日は雲りながらも晴、飛行機も汽車も順調に動き、まずはひと安心。昨日金沢入りをした長尾会長と飲んだ酒もひととき気持ち良く、胸を張って今日のセミナーに向うことが出来ました。

時間通り金沢セミナーが開会し、私と長尾会長、吉田理事長の挨拶も無事終り、第1部の講演会に入りました。チャールズ・シロー・イノウエ氏のお話しは声の強弱がなく、ちょっとインパクトにかけた所もありましたが、話の内容は、“アメリカの出版印刷関係者の中には昔ながらの活字を使って手づくりで造る本の技術者が付加価値の高い商売をしている。”“日本は視覚文化であり、目を見たものイメージについては評価は高いが、理論については漠然としている。”そしてインターネットのホームページ、アップルコンピューターの今後、ペーパーレス時代の到来と、大変内容の濃いお話しをしていただき今後の参考とさせていただきます。

第2部では前述した通り事が運び、参加者の方々から絶大な支持を受け、大盛況裏にワキアイと終了することが出来ました。懇親会では思った以上に料理が多く、これなら皆様方にご満足いただけるものと確信いたしました。

第29回金沢セミナーが無事成功しましたのも、緑友会メンバーの温い友情の賜ものと深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

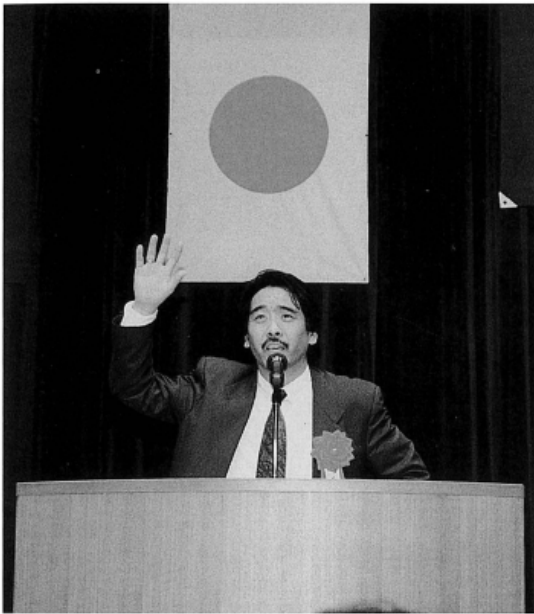
講演 日米出版・印刷事情

チャールズ・シロー・イノウエ氏

●プロフィール

- 1954年 ユタ州に生まれる。
- 1978年 スタンフォード大学を卒業、日本文学を専攻。
- 1978-82年 文部省の奨学金を受け、神戸大学修士課程修了。
- 1988年 ハーバード大学博士課程修了。博士論文は「泉鏡花と日本文学に於ける視覚性」。
- 1987-88年 ハーバード大学日本語助手就任。
- 1988-91年 ウェスリアン大学東洋文学部助教授就任。
- 1990-91年 ハーバード大学ライシャワーセンター特別研究員就任。
- 1991-現在 タフツ大学ドイツ語・ロシア語・東洋言語文学部助教授及びハーバード大学ライシャワーセンター研究員を兼任。

文学評論や文学理論、特に日本近代文学や文学と絵画との記号論的比較研究を専門とする。金沢への訪問を繰り返し1993年には家族4人で4ヶ月間滞在、タフツ大学と金沢市との交流を深めるよう努めている。趣味は、魚釣り、ピアノ、スクアッシュ、小説も書いている。



今日は、アメリカの出版事情についてお話しさせていただきます。

今ははっきり言って、アメリカの出版業界は大変な時期です。なぜかと言いますと、印刷の仕方、出版の工程が乱れてきているのです。電子化されているのですが、それについて今日お話しさせていただきます。そして一つのテーマとしては、これから印刷業界はどうなるのか、これからの本というもの、あるいは雑誌というものがどうなっていくか、それについて一緒に考えていただきたいと思っています。そして、それに答えるには歴史的な仕方を使用して、そして記号学的な視点で考えてみたいと思っています。

アメリカの出版界は、メードルハウス、例えばランダムハウス、サイモンシュスター、あるいはクノッフ、こういうような大きい会社が20軒ぐらいはあります。それに大学のプ

レス、ハーバード、スタンフォード、それに小さいプレスは、例えばグレイウォーフという会社ですね。コーヒーハウス、シッターデール、ハーベストハウス、モッキンバード、こういうような小さい会社が出てきています。

どういう仕組みになっているかと言いますと、大体こういう形になっています。編集部、セールス、宣伝部、それに印刷。今の大きい会社は、自分では印刷なんかはしなくていいですね。人を雇って、あるいはサブコントラクターでやるようになってきているのです。

まずエディティングについて考えます。今編集者というものは、原稿を見て直したりする仕事が大変少なくなっています。人の原稿を直したりする時間がなくて、大体いい原稿を探す、それを購入するというところに力を入れているのです。それが大体仕事の80%になっていまして、最近の4年間、原稿をで

きるだけいいものにするというよりも、高く売れるようなものをまず探して、それをできるだけ早く出すという傾向が出てきました。

ですから、大きい会社ならセールスに力を入れていまして、今、大変大きいお金が動いているのです。大体原稿を買うときは、原稿料に印税を契約書で決めてしまうのですが、それは今編集者がやるのではなくて、エージェントがやるのです。

エージェントは日本にはあまりいないそうです。エージェントの仕事は何かと言いますと、原稿を探すことです。作家との人間関係をつくって、それでいいものを持って編集のほうに売る仕事なのです。ですから、ものを書いた人はエージェントにそれを渡して、エージェントはエディターに渡して、エディターはセールスにそれを持っていきます。セールスは今度はパブリシティーのほうに行って、そのパブリシティーはプレントルと連絡をとって、印刷する人が本をつくって、それを倉庫に行かせて、その倉庫から店に持っていくわけなんです。こういうルートを通ってやっているのです。

では、これから、小さい会社について、将来本がどうなるかということについても少し考えます。アップル会社が今、デスク・プレディング、いわゆる机上のプレディングのメインになっているのですけれども、皆様やはりアップル使いますか。

アップルが出しているデスクトッププリンティングは、今出版業界に大変大きな影響を及ぼしているのです。ということは、小さい会社でも印刷会社に印刷を頼まないわけですね。前は 出したいと思って印刷の会社に頼んだものが、自分で出せるようになってきました。

日本の場合も似たようなものでしょうけれども、電子化されるだろうと皆様は思っているかもしれないけれども、どちらかと言えば、アメリカのほうが出版のプロセスにおいてはゆっくり動いているみたいです。しかしあらゆるコミュニケーションの場、その領域においては速く動いているのです。日本の逆のプロセスです。Eメールを使わない会社は、現在ほとんどなくなってきています。僕は大学にいますので、毎日Eメールを使っています。

手紙を出さない利点の1つは、紙を使わないことなのです。アメリカで紙が足りなくなってきました。木が前みたいにかくさんある



のではなくて、その材料は非常に限定されてきているのです。どうするかということは今考えて迷っているところです。紙は原料も要るし、スペースもとるし、運ばなくては行けないので、紙なしの世界をつくろうではないかという人が多くなってきました。

紙なしの世界ですけれども、その紙のない印刷、あるいは情報をどう考えるかが1つの問題なのです。今の読者は、紙のない世界なんかはあまりなあってほしくないそうです。自分の手で持って座って読みたいと、ほとんど皆そう思っていますし、そして画面を見て情報を得るといのは、ある意味では大変便利でしょうけれども、なれていなくて、そして目が疲れる。それで嫌がっているところがあるのです。

かといって、今の若い人たちは、学校でコンピュータを使うようになってきています。小学生1年からコンピュータの使い方を習いますね。とにかく若い人はコンピュータを使うようになってきています。はっきり言ってコンピュータを使えない学生は大変ひどい目に遭うようになってきているわけです。物を読む習慣が僕の時代、世代の人たちとは違いました、やはりなれていますから、そのうち画面になれた若者が大きくなると、紙の世界、紙の本とか雑誌とかそういうものを読まない人ではないかという人が出てきました。

そして、紙のない世界のもう1つの大問題は、電気で流れる情報ですので、その電気の情報の権利。例えばウェブでもインターネットでもそうですけれども、もう出してあるわけですから、そのもともとのアイデアを持った人が、その自分のアイデアが流れていくと、自分の権利で自分のもうけになるかどうかは今考えている、もめているところです。

また電気権利というのが、まだ概念としては非常に新しいですから、この問題をどうやって解決していくかはだれもわかりません。そして、支払いはどういうふうに行うことができるかというのも一つの問題です。

日本の場合は「情報の社会」と15年ほど前から言っているんです。コンピュータ化されるだろうと言っているのですけれども案外遅いんですね。僕も、ミーティングのところに行き行って研究をしたことがあります、あそこでびっくりしたのは、コンピュータを使っていないということなんです。コンピュータにデータが入っていないというのが想像できないですね。アメリカのほうが進んでいるかもしれないけれども、これから日本もそうなるでしょう。

かと言って、コンピュータが嫌いな人がアメリカにも多いですね。この前、僕は、エージェントのところに行き尋ねたところによりますと、やりとりは何を使ってやっているかと聞いたら、第1電話、第2ファックス、第3手紙、第4Eメールです。ですから大学に遅れて、企業はEメールをさほど使っていないようです。

それはどうしてかと言いますと、やはり企業においては、人間関係というのが大変重要なものです。ただそのアイデア、情報を交換するのではなくて、人と人とのやりとりで仕事が決まるので、やはりEメールは使わないです。顔が画面に出る電話がはやるようになってきているのですけれども、それで仕事をするとより効果的だと言われています。その点においては、日本の業界とはあまり変わら

ないかもしれません。

もし、これから仕事をしようと思えばどういふ本を出すか、これから少し考えますけれども、それを考えるには、1つの問題設定をしたいと思います。それは今のマーケット、市場は非常にグローバル化されてきています。日本側は、それは昔から知っているのです。輸入しているから、外国の情報が入ってこない仕事ができない。

アメリカの場合は、そういう見方をし始めたのはごく最近です。これから英語しか話さなくてもいいというような人物が大変なひどい目に遭っているというふうに見えるようになってきているのです。ですからもう少し外国語を勉強する、そういう傾向が出てきて、例えば日本語でもそうなんですけれども、僕が教えている大学は、学生数からいいますと450人ぐらいしかいないのですけれども、日本語をとる学生は毎年300人ぐらいはいます。相当の数なんです。日本に対して関心を持っている人が多いですね。

これからどういふ印刷が要求されるかと言いますと、こういうふうを考えてみたいと思っています。織田信長は、朝鮮に渡っていろいろなひどいことをするけれども、印刷の機械を持って帰るのです。これは1580年ごろ。その機械はムフポプラスなんです。その機械を日本に持ってきて本をつくらうとします。あの丹録本というものをつくったり、あるいは日本の古典ですね。活字で出版するようになるのですが、それは1630年までやって、そしてその時点で活字をやめてしまうわけです。活字をまた使うようになるのは明治時代ですね。

その長い間に最先端の技術を使って出版しない、印刷しない日本は、やはり版画です。なぜ版画を使うかというのは大問題の1つですけれども、1つは筆を持って文字を書いて、そして同じ筆で絵もかくわけです。同じ空間に言葉と絵を一緒にしてしまおうという傾向が大変強いんです。奈良絵本でもそうですし、絵巻物でもそうですし、普通の絵でも書き物でもそうなんです。風景描写に詩が書いてあるわけなんです。あるいは書道を考えてもいいのですけれど





も、言葉というものは読むというだけではなくて、見るものでもあるのです。ですから、長い間江戸時代の文化は、言葉と絵との非常に密接な関係において発達してくるわけです。

急にそれが明治時代になってなくなってしまふわけです。ずっと昔から絵のついた印刷のものが急になくなったということは、日本人にとってどういう意義があったか、それを考えるのがポイントだと思います。

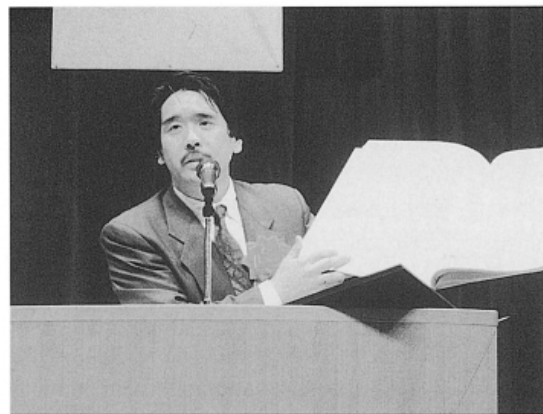
ドイツから機械を日本に輸入して、活字の技術を習って物を出すようになるでしょう。すると、言葉と絵の世界が分かれてしまうわけです。それはヨーロッパの影響のもとでそうなるわけなのです。それはどういう影響かといいますと、デリダというフランスのクリックが『ロゴセントリズム』という本を書くわけです。ロゴセントリックといいますと、ロゴスは言葉という意味で、セントリックは中心、ですから言葉中心ですね。西洋の文化は言葉中心の文化であって、神様は大体見ええないような存在になっているのです。そして、人間にとってあらゆる大事なものが見えないもの、愛とか友情とか真理とか、それは見ようとしても見られないようなものですから存在のベースになっているというのは、口から出る声なのです。しゃべっている言葉、そういう意味の言葉なのです。ですから言葉は、音と見える部分が一緒になっているわけなのです。

音はフォニムと言います。見られるところはグラフィンと言います。グラフィックスのグラフィンです。ヨーロッパの文化はフォノセントリックでもあるし、ロゴセントリックでもあります。ですから、非常に抽象的なことを大事にする文化なのです。

影響。その明治時代になって、日本はヨーロッパの植民地になる恐れがあって、そのプ

レッシュャーのもとで自分の文化は大分変わっていくのです。それで活字という世界が魅力的なものになっているのです。すると活字のプロセスと絵を印刷するプロセスが完全に分かれてしまうわけです。銅版を使って絵を出すとか、明治の雑誌を見るとよくわかりますが、一緒に同じページにあっても、何かまるで別世界のようなものです。

しかし、これは僕なりの説ですけれども、日本の文化というものは、言葉中心の文化というよりも映像中心の文化であって、つまり時間の文化ではなくて空間の文化なのです。例えばほとんどの文化に、人間とは何かという質問に答えてくれる何かがあるわけです。例えばユダヤ教の人たちはあるテキスト、ある書いたものに、やはり真理というものが含まれていると信じてしまうわけです。聖書でもそうです。聖書を読んで人間とは何か、人間のあるべき道は何か、それを読んでわかるんです。僕の知っている限りでは、日本の文化にはそういうテキストはないですね。万葉集でもないし、源氏物語でもないですね。伊勢物語でもない。だから、「あ、これを読んで日本人の心がよくわかる」という古典がほとんどないですね。あっても、それを指す習慣というものはないですね。これは、やはり先進国にしては例外的な存在です。回教、キリスト教、ユダヤ教、みんなテキストの上に基づいている文化です。日本はそうではない。では、日本は何に基づいているかという質問になってきますけれども、テキストではなくて、ある抽象的な概念というよりも、何か見られるような世界に基づいているんじゃないかと思います。簡単に言ってしまうと、日本人はなぜ日本人かと言いますと、日本に住んでいるからです。日本から出てしまうと、



日本人ではなくなってしまうわけです。その変化はものすごい速いプロセスですね。だから中国人に比べると、お話になりませんね。中国人もやはり古い文化を守っていくわけです。孔子が言った言葉でも自分の文化のものになっているのですが、日本人にはそれがないですね。ないから、外国へ行ってしまうとそれに溶け込んでしまう傾向があるのです。それはなぜかといいますと、やはり日本人というものは自分の環境を見て、自分というものがだれかというのがわかるからです。ですから、言葉中心ではなくて絵中心。ピクトセントリックというところがあるのです。ですから大人でも平気で漫画を読むんです。アメリカで漫画を読む人は、やはり若い人です。それは今変わってきていますけれども、どっちかといいますと、日本人のほうが絵に対する理解が深いです。そして日本の視覚的センスが非常に進んでいます。

この話をするのにいろいろ人と話をしたのですが、日本の印刷はどうですかと聞いたら、「ああ、これはもう世界一のもので、私たちができないようなことを日本人がやっていますね」というのです。本を見てみるとよくわかりますが、日本人ほどデザインが進んでいるグループはいないと思います。

非常に敏感で、ものを見るという力はあるのですけれども、ものを説明する力がその分だけないですね。ですから、そのいいところをぜひこれからも、もう少し積極的に世界に出してほしいと思っているのです。

それはどういう形を出すかといいますと、やはり絵の入っている印刷ですね。あるいは絵中心の本、絵中心の文学、映画もちろんそうですけれども、それをどんどん出せばいいと思います。

なぜそうすればいいかといいますと、アメリカだって今、近代という時代がもう終わっています。今、ポストモダンです。それはどういう文化になっていくかといいますと、やはり言葉の世界ではなくて絵の世界ですね。簡単に言ってしまうと、アメリカの文化は日本の文化に似てきてしまったわけです。



本というものを考え直そうとするならば、やはり絵のない本は、これからあまり売れなくなるのではないかと僕は思います。アメリカでそういう習慣がまだないので、日本人側が先に発展していくのではないかと思います。それは小説というものと漫画というものを合併して、何か新しいチャンネルをつくるというのが1つのポイントだと思います。

三菱電機は今グラフィックのテクノロジーを主に出そうとしているところなんです。ディスプレイのテクノロジーです。ですから紙の要らない本でもつくればと思いますね。やはり本が大変いい形をしているから、その本の形をしている画面をつくれればどうでしょうか。ただし、その技術が要るわけです。これは本の未来の形ではないかと思いますが、皆様はどう思いますか。

印刷、出版の業界の人たちが目の前にいられますけれども、これから紙のない本とか、日本の文化がポストモダンの中心となるとか、それについてどう考えますか。そういう技術は日本にありますか。今、ワードタイクというのがありますね。そのもう一歩進んだ形で、きれいな画面で本の大きさと形をしている、やはりテレビのシステムが要りますけれどもどうですか。それをアメリカの会社と組んでやりませんか。本当のまじめな話ですよ。宇野さんはどう思いますか。

これからも頑張ってください。以上です。

クイズ!! 緑友ゼミナール 問題・解答



第1問：セクハラでこまっちゃう

Q. 当社の女子社員Aから「上司であるBが、たびたび、職務中や会社の宴席で『Aは社内のCと不倫している。』との虚偽のうわさを流して困っている。Bを処分して欲しい。」と言われております。会社としてはどのように対応すべきでしょうか。

- A. 火のないところに煙はたたない、女子社員AはBがうわさしているほどのことがないにしろ、何かあると思うのが妥当です。会社とすればAを処分するべきでしょう。
- B. ある程度の調査は必要ですが、BのうわさによりA本人だけではなく、Cをはじめ周りの労務遂行に著しく支障をきたしたことになります。会社としては働きやすい環境を保たなければならないので、Bを処分しなければなりません。
- C. 個人の問題で会社としては口出しができません。第三者がA、Bに話を聞き和解の方向へと対応することはできませんが、会社の立場で物事を運べば不法行為となります。
- D. 会社としては労働環境を配慮する必要があるのですが、事実を確かめる為調査しなくてははいけません。本当にセクハラなら放置しておくとな不法行為になります。

第2問：勤務中にお買い物？

Q. 来社されるクライアントへのお菓子を、営業事務の女子社員に買いに行かせたところ、転んで大怪我をしました。この場合労災扱になるのでしょうか？ただし、本人はその途中に自分の用をたそうと寄り道したということです。

- A. 私的な物を買いきく途中なのだから業務ではなく、勤務時間とは考えられません。業務命令の途中に怠りがあり、残念ながら労災になりません。
- B. 会社とは全く関係のない遠い方向へ歩いていたのなら別ですが、会社への帰り道の事故で、労災扱になります。
- C. どちらともいえないので、勤務態度や性格などをふまえて決めるのが妥当です。この場合買いに行かせた上司が判断するべきです。
- D. 会社への通勤、帰り道などはすべて労災扱になるはずですが、休憩時間や昼食時も例外ではなく、この場合の外出でも勤務時間に変わりはないので労災扱です。

第3問：残業代割増は欲しい？

Q. 私の会社では、製本部門に主婦のパートタイマー2人を雇用しています。1日実働(AM9時~PM4時)6時間・週5日の契約ですが、2人には業務の都合でやむをえず残業(1時間)をしてもらうことがあります。このように、パートタイマーに残業をさせた場合には、やはり割増賃金を支払うべきでしょうか？

- A. 主婦のパートタイマーは賃金にうるさいので、割増して支給しておいた方が無難です。
- B. この場合は1時間しか残業していないので割増し賃金は支払う必要はありません。
- C. パートタイマーといえども、残業は残業なので割増賃金は支払わなければいけません。

- D. 本人たちが希望した場合にのみ割り増ししておいた方がよい。

第4問：刷版フィルムは誰のモノ？

Q. クライアントから他の印刷業者で再版するからといって、刷版フィルムを返すよう言われました。フィルムの所有権は当社にあると思うのですが返却する必要はあるのでしょうか？

- A. クライアントのもつ複製権を保護するために、引き渡し請求権が認められます。ただし、一年間の保存期間の制限があり保存期間を過ぎていれば返却の必要はありません。
- B. 印刷は請負契約であるために、印刷物納入に必要な途中生成物はクライアントに所有権があります。技術料などを含めてクライアントが負担しているので、返却しなければなりません。
- C. もともとはクライアントや印刷会社が発注したデザイナーがいるわけですが、著作権があるため刷版フィルムといえども、最終的な決定権はデザイナーにあります。
- D. 印刷は請負契約だから、印刷物を納入することで契約は履行されています。返却の必要はありません。

第5問：インターネット？それなんや！

Q. インターネットに関する、明文化された規制はあるのでしょうか？また、規制を行う団体はあるのでしょうか？

- A. 中国やシンガポールでは、インターネットで流通する情報を国が検閲を行っています。
- B. 東欧ではポルノ情報視聴制度を行っています。
- C. アメリカで、ネットワーク社会における市民の自由と権利を守ることを目的として設立されたEFF（電子フロンティア協会）が、非合法的な情報の流通を取り締まっています。
- D. 明文化された規制も、規制を行う団体もありません。

第6問：労災保険はどうなるの

Q. 勤務中のケガで休業中だった社員が、まだ完全に直りきっていないうちに、「体を慣らす」意味も含めて一週間半日出勤しました。その間の労災保険の給付は支給されるのでしょうか？

- A. 会社から受け取る賃金が60%に満たないので金額支給されません。
- B. 労災保険に加入していても、出勤したのだから労災の給付は受けることができません。
- C. 「体を慣らす」必要があったか、まず審査を受けその結果の判定に従うしかありません。
- D. 半日出勤したのだからその賃金分を差し引いた分だけ給付を受けることができます。

第7問：お休み、どうしよう

Q. 私の会社では、ゴールデンウィーク中やお盆に大勢の社員が年休を請求してきます。今回、55歳のベテラン製版担当のAから年末年始の休日にあわせて、前後4日間の年休がほしいと申出がありました。しかしそれを認めてしまうと、確実に業務に支障がある日がでてきます。Aは休みをもらえないと会社を辞めるとまで言っています。どう対応すればよいのでしょうか。

- A. すべての労働者の希望通り年休を与えることはできません。この場合業務に支障が出るので、会社側から休暇の時期を変更させる権利があります。
- B. 業務に支障がでてしまいますが、労働基準法で定められている限り、有給休暇は労働者の請求する時期に与えなければなりません。断ると労基法違反になります。
- C. 直属上司の判断でよい。例えば業務に支障があろうがなかろうが、お土産を買ってくれば許すといったケースもあります。
- D. 有給休暇は労働者の当然の権利ですが、休暇日を承認するのは会社です。1年を通して休暇日の選定は前端的に会社に権利があります。この問題の場合も認めることはできません。

各地行事報告

○21世紀へむかって！（創立25周年記念）



主催：東京プロセス工業協同組合青年部
青樹会
日時：平成8年3月9日（土）
場所：ホテルニューオータニ

記念講演としておこなわれた中村守利氏の「若手経営者の心」は全国印刷緑友会第14代会長として常に緑友会をやさしく見守ってくれる氏の心が表れていた、ときにやさしく、ときにきびしく、そして未来を見つめた氏の話は聞く者の心をふるいおこしてくれた。

平成7年度 第2回 常任幹事会議

平成7年11月11日
天童ホテル

1. 直前会長挨拶

長尾会長 父上急病の報あり、急遽欠席のためその後大事な
い旨の連絡があった。

2. 仙台刷親会 中村会長挨拶

仙台刷親会40周年記念行事（10月21日）のお礼があった。

3. 金沢セミナーでの綱領唱和について

広島青年印刷研究会 福田君と決定した。

4. 山形総会について（若月氏）

日程 平成8年5月25日（土）

会場 天童ホテル—詳細別紙

1) 登録料（23,000円）について

宿泊無しのケース—個別対応とする

2) グループディスカッションについて

情報ネットワーク推進委員毎にグループ分けをし、各委員の
小講演会とグループディスカッションの組み合わせを考えて
いる。

参加希望グループの取りまとめ等、具体的手法については小

倉担当常任とも協議して今後詰めていく。

3) 総会前後のオプションについて

前日(24日) こもりマシナリー高畠工場見学会

翌日(26日) サクランボ狩を予定している。

5. 熊本大会報告(大鶴氏)

決算報告があった。

6. 金沢セミナーについて(中村氏)

中間報告書に沿っての説明があった。

人員については、金沢のメンバー(54名)を含んで、250名規模を想定している。約200名の動員については、ブロック担当常任を活用することと近県グループの協力が重要との意見がありました。

7. 9年度総会開催地について

長野・神奈川・福岡で検討して貰って、次回常任幹事会までに決定することとした。

8. 情報ネットワーク推進委員について

1) 別紙により委員の活動状況報告があった。(小倉氏)

講師料のガイドラインが示された。

日程については、講師のスケジュールを優先して下さい。

2) 推進委員の位置づけについて

情報ネットワーク推進委員とは、限定された人数で委員会を構成するわけではなく、「友情と研鑽」を具体化するためのスペシャリストとしてみなさんに紹介しているので人数も適宜増やしていくことになる。

常任幹事会への出席は、不要だが、必要を認めた場合には要請をするケースがある。

等の意見が出された。

3) 新しく、やまなし印刷若人会 井上氏、福岡印刷若葉会間氏を委員として承認された。

9. 名簿クリーニング状況について(棚橋氏)

変更状況につき、未返信が21グループある。

2月金沢セミナー時にA4判50頁(1,500部)で渡せるよう進行している。

山梨大会でCD-ROM化したいと思っている。

10. 会計幹事より

各グループからの入金状況につき報告があり、未納が11グループの現状です。

※ 名簿未返信・会費未納グループについては、各ブロック担当の常任幹事も協力してこれに当たることとした。

結果については、総務幹事にフィードバックする。

(期限、名簿の件-11月末まで 会費の件-12月10日まで)

上記の締切により、2月に名簿を発刊することとした。

11. 周年行事への常任幹事の出席について

・各グループまで日程を調整して貰えないか。

・日程のバッティングはあっても良いが、各々への出席の振り分けがあれば良い。

・出席については、各自で再認識を願いたい。又、案内を頂いた事について祝電等の礼儀は考えて欲しい。
等の意見が出された。

12. 周年行事について

・平成8年3月9日(土) 東京プロセス製版青樹会 25周年

・平成8年6月29日(土) 神戸印刷若人会 40周年

・平成8年7月5日(金) 沖縄県印刷若潮会 20周年

第14会 九州・山口青年印刷人 沖縄大会

※次回(第3回)常任幹事会 3月10日(日)東京にて

13. 40周年東京大会について(芝崎氏)

第1会準備委員会を10月21日に開催しスタートをした。総務小宮山氏 記録 大内氏とし、3月に実行委員会のスタートを目ざしている。

内容については、「印刷産業のこれからの方向性」を考えていきたい。

14. 山梨大会について(井上氏)

マルチな午後というコンセプトで、

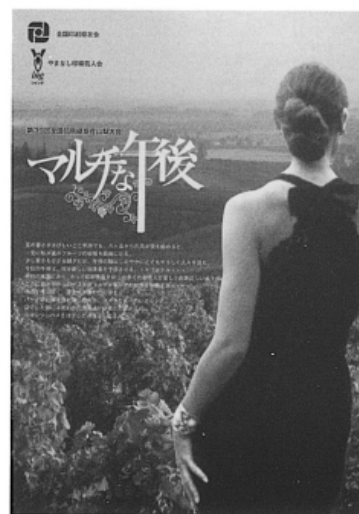
式典後はデジタル塾として、デジタルカメラによる撮影会→加工→出力やインターネットを使ったテレビ会議等を計画している。

○第39回印刷緑友会山梨大会 タイムテーブル

開催日：平成8年10月19日(土)

会場：常磐ホテル

登録料：27,000円



リレーエッセイ

長尾会長の方針「友情と研鑽」 研鑽は情報ネットワーク推進委員が主役
友情の主役はこのリレーエッセイがつとめます。

雑 想

大分印刷若梅会 いづみ印刷(株) 小野 健 介

ある日曜日の夕方、妻と二人で、私の住んでいるU市に唯一軒あるイタリア料理店に食事に行った時の事です。休日の夕方でも食事もどきというのに何故か店内はガラガラでした。にもかかわらず、注文して待つ事約50分、待ちに待ったパスタが運ばれてきました。そこで妻が一言、『もう、これが最後ね。』

しかし、非常に空腹であったというのを抜きにしても、そのパスタの美味しい事、麺の茹で加減といい、そのソースの味といい、先日福岡の天神にあり、非常に流行っているイタリア料理の専門店です。食べた味に勝るとも劣らないものでありました。

このお店は厨房をシェフであるマスターが一人で切盛りしていて、あとアルバイトと思しき女の子が二人、給仕しているだけらしく、人出が完璧に不足している事が最大の問題であると見受けられました。

ただ、私はこのお店が気に入っていて、以前から時々食べに来ているのですが、その度にシェフの作る料理に満足していました。

只、ちょっとここに来て不満なのが、よくある在り来たりのファミリーレストランにありがちな、ハンバーグや焼きそば、ステーキといった料理をメニューに入れている点で、願わくば、純然たるイタリア料理の専門店として、素材やメニューに徹底的にこだわってもらい、本場顔負けの味を意欲的にどんどん取り入れ、私たち客にもっともっと提供してもらいたいと切望するのみです。(一イタリアファンとして)

大分県南部に位置するU市は、全国的には近年、「国宝」に昇格した摩崖仏が有名ですが、まちとしては、極めてローカルな過疎のまちで長引く不況の為、人材不足(特に若年労働者)が既に慢性的症状となっており、それが加速度をつけて進行している点が大きな問題であり、現状であると言えます。

中には、優秀な人材は学校卒業後、どんどん大都市へ流れて行き、故郷に残っているのは行き場のないどうでもいような人間ばかりだと言う人が居ますが、私はそうは思いません。

現に地元をビジネスの拠点にして県内外に渡り幅広く活動している人を私も知っているし、実際、『都会だから〇〇が出来る』『田舎だと〇〇が出来ない』という事は単なる屁理屈だと思います。

大事なのは「今、自分が何をやっているか」だと思います。

只、冒頭のイタリア飯屋さんのように地元で、その土地に住む人をお客様として生業(なりわい)をしている所が、料理人としての確かな腕と実力をもっているにもかかわらず割を食っている、実に勿体ない事が発生している事実、このような事は、今日本全国どこでも起こっている問題であると思います。

私もここU市で印刷業を生業(なりわい)として、とにかく精一杯、絶えず模索しながら会社経営と社業の精進に取り組んでおりますが、ややもすれば狭い見方に陥る危険を常に学んでいます。それは私の未熟に因る所が非常に大きいと反省しております。

只、私見で申しますがどんな職業においても『俺はこれでメシを食っているんだ!』という強い自信を持ち、かつ『今より素晴らしいものをそれを必要としてくれる人(お客様)に一番良い状態で提供してゆきたい!』といった感謝の念と奉仕の心とに裏付けされた「まごころ」を大切に育くみ、日々絶え間ない努力と研鑽とを積み重ねてゆけば「本物」に限りなく近づく事が出来、必ず道が開かれると信じております。

その為に、今、何をなすべきかをはっきりと肝に銘じなければならぬし、何よりもそれを愛する事が一番大切だと考えます。

ただはっきりしているのは、ここU市も西暦2000年には間違いなく高速道路の沿線都市になる事です。

やるべき事、しなければならぬ事は山のようにありますが、せめてそうなる前に『大海(の広大さ)をよく知っている井の中の蛙(かわず)』になりたいと渴望し、ひたすら努力奮闘の毎日を大切に送ってゆきたいと思います。

次号の担当は

藤井 直樹さん(熊本県印刷緑友会)
中央印刷紙工(株)経営企画室 室長
〒860 熊本県田崎二丁目5-38
TEL 096-354-4191
FAX 096-354-4165